

日本学術会議第三部電気電子工学委員会 URSI 分科会  
新小委員会「電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会」  
第3回会議要旨

2025年9月26日

第26期第三部連携会員  
小委員会委員長 河野隆二  
(横浜国立大学名誉教授、YRP 国際連携研究所理事)

第3回新小委員会「電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会」を下記の通り開催したことを報告する。

- ・ 日時：：2025年9月24日(水) 17:30~20:30
- ・ 場所：オンライン(Zoom Meeting)
- ・ 議題：
  1. 小委員会委員の選出(各 URSI 小委員会からの推薦、その他)
  2. 今期「未来の学術振興構想(改訂版)」に伴う更新内容の確認(事前に配布した案の確認、修正)10月1日日本学術会議提出締め切り
  3. 今後の活動方針について(学会研究会、国際会議(PIER2025, AP-RASC2028, GASS)などでの企画、具体的な電波資源共用問題の抽出など)
  4. その他
- ・ 出席者(定員7名)：出席：河野隆二、八木谷聡、高田潤一、安在大祐、小林匠、宋 航  
オブザーバー出席：李 還幫(C)、鈴木恭宜(C)、藤元美俊(C)、曾根秀昭(E)、齋藤享(G)、  
久野成夫(J)、平松正顕(J)、多氣 昌生(E, K)、伊藤 公一(K)  
欠席：小林一哉、  
(敬称略)
- ・ 配付資料：
  - 資料3-1 第1回・第2回開催報告と第3回開催案内
  - 資料3-2 第1回会議要旨
  - 資料3-3 第2回会議要旨
  - 資料3-4 電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会委員候補名簿(9月22日版)→改訂版(9月26日版)
  - 資料3-5 第26期「未来の学術振興構想(改訂版)」案→改訂版
  - 資料3-6 第26期「未来の学術振興構想(改訂版)」図案→改訂版

会議の議題に入る前に、当小委員会の幹事団の自己紹介と、資料3-4に推薦された委員候補の中で、オブザーバーとして当日参加いただいた方々の自己紹介を行った。

**議題1. 小委員会委員の選出(各 URSI 小委員会からの推薦、その他)**

- ・ 河野委員長より、第1回、第2回小委員会の議事要旨が資料3-2, 3-3により説明された。
- ・ 第2回で審議されたとおり、電波の科学利用、商業利用、ならびに公共利用の立場を踏まえ

た視点から議論に参加いただける委員を URSI 分科会の A-K 小委員会から、1, 2 名をご推薦いただくために、河野委員長より各小委員会に推薦依頼した結果、9 月 22 日現在で資料 3-4 の委員構成案を、委員長から説明された。

・未だ所属長の承認を得ていない委員候補、資料に未記載の委員候補について、所属等の修正依頼を受けて、9 月 26 日時点の委員名簿案を作成した。八木谷 URSI 分科会委員長より、10 月開催予定の URSI 分科会における承認を経て、日本学術会議の所定の承認処理を行い、その後正式な委嘱状が発行されることが説明された。

・URSI 以外からも学際、産業界、行政（電波法施行など）の多様な視点から議論に参加いただける委員を今後も参加依頼し、30 名程度の委員会構成とすることを確認した。

## 議題 2. 今期「未来の学術振興構想（改訂版）」に伴う更新内容の確認（事前に配布した案の確認、修正）10 月 1 日日本学術会議提出締め切り

・今期「未来の学術振興構想（改訂版）」に対して、河野委員長が資料 1-13 の意向表明（締切：8 月 1 日）を更新内容検討中として提出済みであること、および、10 月 1 日提出締め切りに向けて、更新案として資料 3-5、3-6 の説明が行われた。

- (1) 採択されている題目「SDGs の達成に資する電波資源の科学・商業・公共利用におけるレギュラトリーサイエンスに基づくハーモナイゼーション」、分野融合領域、グランドビジョン⑩エネルギーと環境の両立的課題解決、申請者、組織などの変更はない。
- (2) 主な変更点は、分野融合領域、グランドビジョン⑩に位置づけられていることを踏まえ、17 の SDRs の中で、より関連の深い電波利用の共存共栄の具体的な課題例を挙げ、焦点を絞り審議会などへ有効な知見、見識を提供すること、本小委員会の活動意義をより明確にする。
- (3) 具体例として、電波天文などの電波の科学的利用に対する空間伝送型ワイヤレス電力伝送（WPT）、超広帯域（Ultra-Wide Band; UWB）無線伝送測位測距、Beyond 5G(6G)などの商業利用、離隔地、途上国などにおける電波を利用した遠隔医療や、自然災害の防災や被災者救済などの公共利用との周波数共用、商業利用同士の共存条件などの最近注目されている課題についてのレギュラトリーサイエンスに基づくハーモナイゼーションなど、対象を明確化する。
- (4) 本小委員会の成果が、電波法、薬機法などの改正、施行を管轄する総務省情報通信審議会や厚生労働省 PMDA などにおける審議に貢献する。
- (5) 電波利用に係わるすべてのステークホルダーが合意できる論理的なルール作り、認証に必要な測定法、評価法などを構築する。
- (6) 世界電波科学連合（URSI）において、URSI 日本（日本学術会議 URSI 分科会）が中心となり、レギュラトリーサイエンスに基づく電波利用のハーモナイゼーションを国際連携により推進する。
- (7) 申請時にはなかった当小委員会を設立し、さらに、URSI-GASS2023 などの国際学術会議におけるパブリックレクチャー、パネル討論などの活動を推進していることを追記する。

・改訂案における誤植などの指摘があり、修正後に、10 月 1 日までに既に入力済みの改訂版を修正の上、河野委員長が申請入力を完了することとなった。

## 議題 3. 今後の活動方針について（学会研究会、国際会議（PIER2025, AP-RASC2028, GASS）などでの企画、具体的な電波資源共用問題の抽出など

・河野委員長よりの説明に対して、いくつかの質疑応答が行われた。

(1) 平松正顕 J 小委員会委員より、国立天文台では総務省情報通信審議会、ITU-R などでの電波法改正などに備えて、日頃より商業利用を新電波利用商用システムの企業 (Promoter 側) と、電波天文システムを運用する (Victim 側) の協議を行っている旨、説明された。これについては、本小委員会では、商業システムの利用者、電波利用などに関する監督官庁、関連する要素技術・理論の研究者などの同周波数帯電波利用に係わる多くのステークホルダーにも参加いただき、レギュラトリーサイエンスに基づく同意を目指す議論を。国内外の連携により行うことで、役に立てることを目指す旨、説明された。

(2) 斎藤 享 G 小委員会委員より、資料 3-6 の図中に、科学利用の例として、RAS, EESS と共に GNSS (全地球航行支援システム) も同様にに入れるべきであるとの指摘を受け、追記することとした。同様に、追記すべき具体的な周波数共用システムについても追記を行うこととした。

(3) 多氣昌生 E, K 小委員会委員、伊藤公一 K 小委員会委員の自己紹介の中で、短時間では紹介しきれない電波医療利用システム、人体防護指針などに関するこれまでの成果、多くの知見などに関して、河野委員長より是非、本委員会が主催共催する学術研究集会、国際会議などで、招待講演、パネル討論などの他、当委員会内で中核となり、あらゆるステークホルダーとの議論に拡げ、レギュラトリーサイエンスの観点などで貢献いただきたい旨、依頼された。

(4) 高田潤一副委員長より、本委員会の活動は、2021 年の URSI 総会以降、AP-RASC2013、URSI-JRSM 2015、RFI2022、URSI 日本創立 100 周年記念シンポジウム、URSI-GASS2023 等で、継続的に検討してきた電波利用の共存共栄に関する課題は、Commission A-K の個々の議論に限らず、全世界規模で URSI が主体となり取り扱うべき重要課題であること、本委員会が議論の中核として機能することを期待する旨、意見を述べられた。

- ・ 10 月に予定されている URSI 分科会に向けて具体的な活動を進め、同委員会で報告する。
- ・ 特に、本委員会の活動を実質的なものにし、活動に参加される方々にとって価値あるものとするために、活動資金を調達する関連する公募プロジェクトなどにも申請する。
- ・ URSI 他の国内外の学会研究会、国際会議などと連携して、本小委員会の関連特集、パネル討論、研究発表、論文特集などの学術活動を他の小委員会と連携して実施する。
- ・ 総務省、ITU-R などにおける電波法・指針などの法制化・行政活動 (情報通信審議会など)、厚生労働省 PMDA の薬機法における電波利用医療機器のガイドラインなどの作成に貢献する。
- ・ 広く、電波の科学利用、公共利用と共に産業利用を通じた SDGs 達成に資することを活動方針の根幹とする。

#### 議題 4. その他

- ・ 小林一哉委員より、本年 11 月千葉で開催される PIERS 2025 において、本委員会の課題に対する short courses (3 時間) の提案打診があった旨、河野委員長から説明された。未だ、本委員会の活動開始まもなく、パネル討論は可能であるが企画提案が締め切られており、見送ることとした。
- ・ 次回は、10 月に予定されている URSI 分科会において、本委員会の現状を報告する。

以上